

令和6年度

外部講師を活用したがん教育等現代的な健康課題理解増進事業 事業成果報告書

【外部講師を活用して実施するがん教育の推進に係る取組】

1 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員（16名：医師（呼吸器内科）1名、大学助手1名、学識経験者1名、県保健医療部1名、県教委3名、校長4名、養護教諭4名、教職員1名）

構成員氏名	所属及び役職
中川 勝	県医師会 理事
横山 郁子	神戸薬科大学地域サテライトセンター 助手
丸山 有希	県教育委員会 学校保健技師
牧野 徹	県立芦屋高等学校 (モデル校) 校長
平田 新二	千種学園宍粟市立千種中学校 (モデル校) 校長
上山 昌秀	千種学園宍粟市立千種小学校 (モデル校) 校長
石川 勝己	県立西神戸高等特別支援学校 (モデル校) 校長
野々口 かをり	県養護教諭研究会連盟 会長
西村 和美	県立芦屋高等学校 (モデル校) 授業担当教員
山本 美紀	千種学園宍粟市立千種中学校 (モデル校) 授業担当教員
一坪 ゆか	千種学園宍粟市立千種小学校 (モデル校) 授業担当教員
大西 利恵	県立西神戸高等特別支援学校 (モデル校) 授業担当教員
河原 秀和	県保健医療部疾病対策課長
内藤 敦志	県教育委員会事務局体育保健課長
平澤 郁子	県教育委員会事務局体育保健課主任指導主事兼主幹
吉村 友弥	県教育委員会事務局体育保健課指導主事

2. 開催時期、検討内容

○第1回協議会（令和6年8月23日 兵庫県民会館）

議事（1）がん教育に関する計画（案）について

（2）がんに関する事業内容について

ア がん教育に関する協議会について

イ 講演会について

ウ 研修会について

エ 外部講師派遣事業について

○第2回協議会（令和7年1月30日 東灘区文化センター）

議事（1）令和6年度成果と課題について

（2）外部講師窓口リストについて

（3）令和7年度がん教育等現代的な健康課題理解増進事業について

② 教育委員会としての取組

○モデル校4校（高等学校1、中学校1、小学校1、特別支援学校1）に講師を派遣し、講演会を開催した。

※詳細は（2）外部講師を活用したがん教育の授業に記載のため省略

○がん教育に関する教職員及び外部講師対象の研修会の開催（令和6年12月13日（金））

学校におけるがん教育において、外部講師の関わり方を充実させることにより、より効果的ながん教育の実施を図ることができるように、外部講師及び教職員、市町組合教育委員会担当者等対象に開催した。

本研修会では、兵庫県立がんセンター診療部 腫瘍内科医長 尾上 琢磨 氏より、「がん医療と教育現場の接点～がんの基本的知識とがん教育～」というテーマで講演頂いた。

また、昨年度モデル校担当者による各校の実践事例発表を実施したのちに、質疑応答を行った。参加者から多くの質問があがり、アンケート結果からも大変参考になったという声を多く頂く研修会となった。

【参加人数：137名】

○県立学校を対象に外部講師派遣事業を行い、派遣を希望する学校へ講師を派遣した。今年度は14校の希望があり、疾病対策課等と協力し、医師、看護師、がん経験者、大学関係者を派遣した。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

○県保健医療部と連携し、がん診療連携拠点病院や県医師会の協力を得て、外部講師となりえる医療関係者等に対して、研修会を実施した。内容としては、兵庫県立がんセンター診療部 腫瘍内科医長 尾上 琢磨 氏より、「がん医療と教育現場の接点～がんの基本的知識とがん教育～」というテーマで講演頂いた。

○外部講師の連絡体制が取りやすくなるよう、県保健医療部と連携し、がん診療連携拠点病院における外部講師の窓口担当者リストの時点修正を行いHP等に掲載できるよう調整した。

（2）外部講師を活用したがん教育の授業

＜モデル校における取組＞

○令和6年9月2日 県立西神戸高等特別支援学校

講演内容は、NPO 法人がんノート 代表理事 岸田 徹 氏に講義を頂いた。その後、各教室にもどり、担任が中心となってグループワークを行い、各生徒の感想発表や意見交換を行った。この際、神戸薬科大学地域サテライトセンター 助手 横山 郁子 氏や神戸薬科大学の学生に待機して頂き、担任の先生が答えづらい内容が出た際には、代わりに答えて頂いた。講演頂いた岸田氏も、このグループワークの時間に各教室を巡回し、質問などを聞いて回った。

【講師】NPO 法人がんノート

代表理事 岸田 徹 氏

「25歳でがんになった経験から」

神戸薬科大学地域サテライトセンター

助手 横山 郁子 氏

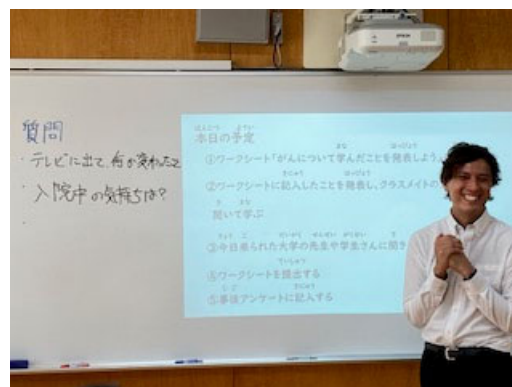
【参加人数】全校生徒及び教職員 200名

【実施科目・授業時数】特別活動2時間

○令和6年9月13日 県立西神戸高等特別支援学校

1年生を対象に神戸薬科大学地域サテライトセンター横山氏が「がんを学ぼう」と題し、がんの正しい知識について講義して頂いた。

【参加人数】1年生及び教職員 60名



【実施科目・授業時数】特別活動 1 時間

○令和 6 年 10 月 10 日 県立芦屋高等学校

講演内容は、前半はクイズ形式を用いて基本的ながんの知識について、後半は、自身ががんをり患した際の経験に基づく講話をして頂いた。

【講師】大西 亜矢 氏

元兵庫県立高等学校教諭

「いのちと健康」

【参加人数】1 年生及び教職員 280 名

【実施科目・授業時数】特別活動 1 時間



○令和 6 年 12 月 4 日 千種学園穴栗市立千種小学校

講演内容は、講師ご自身が小児がんによりご子息を亡くされた話から、がんの基礎知識や、命の大切さなど、がんを身近に感じることの重要性をご教示頂いた。

【講師】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金

理事長 田村 亜紀子 氏

「いのちについて考える」

小児がんの子どもをもったお母さんのお話

～だれもが暮らしやすい社会づくり～

【参加人数】3・4 年生・教職員等 30 名

【実施科目・授業時数】特別活動 1 時間



○令和 6 年 12 月 4 日 千種学園穴栗市立千種中学校

講演内容は、講師ご自身が小児がんによりご子息を亡くされた話から、がんの基礎知識や、命の大切さなど、がんを身近に感じることの重要性をご教示頂いた。

【講師】公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金

理事長 田村 亜紀子 氏

「いのちについて考える」

小児がんの子どもをもったお母さんのお話

～だれもが暮らしやすい社会づくり～

【参加人数】中学校 9 年生及び教職員等 20 名

【実施科目・授業時数】総合的な学習の時間 1 時間



○令和 7 年 1 月 15 日 県立西神戸高等特別支援学校

講演内容は、これまで 3 年間学習をしてきたがんを導入で振り返り、いのちは有限であることや、自分の本当に大切なものに気付き、感謝することについて講義して頂いた。

【参加人数】3 年生・教職員等 60 名

【実施科目・授業時数】道徳 1 時間



2 事業の達成度について

○アンケート結果より、今回は、正しい知識、理解が必要というような項目であまり増加がみられなかった。しかし、「がんになっても生活の質を高めることができる。」「日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。」「長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。」「がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。」では大きく増加している。このことからがん経験者の講演では、知識よりも健康と命について主体的に考えることができるようになることや、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力に影響を与えやすいことを示すものとなった。今後は、がん教育の目標の一つは、「がんについて正しく理解することができるようにする。」ということを外務講師との打合わせの際には学校から伝え、外部講師の特性を最大限に活かしながらも、がんについての正しい知識、理解についても成果が出せるような授業を展開する必要がある。

○研修会については、教職員・外部講師を対象としたアンケート結果より、大変良かったという意見が多かった。兵庫県立がんセンター診療部 腫瘍内科医長 尾上氏の「がん医療と教育現場の接点～がんの基本的知識とがん教育～」と題した講義と昨年度モデル校による実践発表がともに好評であった。

※モデル校のみ抽出（ ）内：R5 年度

	がんの学習について	実施前	実施後	増減
(1)	1) a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	74.7% (84.6)	71.0% (91.6)	-3.7 (+7.0)
	1) b がんの学習は、健康な生活を送るために役立つ。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	71.2% (82.8)	72.1% (90.8)	+0.9 (+8.0)
	がんやがん患者に対する正しい理解と認識を学ぶことができた。	実施前	実施後	増減
(2)	2) c がんは日本人の死因の第2位である。 「誤り」と答えた児童生徒の割合	40.3% (61.1)	39.7% (81.1)	-0.6 (+20.0)
	2) e 早期発見すれば、がんは治りやすい。 「正しい」と答えた児童生徒の割合	91.0% (93.7)	91.5% (98.9)	+0.5 (+5.2)
	3) e がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	17.4% (29.2)	17.0% (53.6)	-0.4 (+24.4)
	3) f がんになっても生活の質を高めることができる。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	16.7% (37.7)	29.1% (59.7)	+12.4 (+22.0)
	3) g がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	61.1% (72.6)	66.7% (85.2)	+5.6 (+9.6)
	健康の大切さについて主体的に考えるようになった。	実施前	実施後	増減
(3)	3) a 自分はがんにならないと思う。 「そう思わない」と答えた児童生徒の割合	31.3% (37.3)	29.1% (47.2)	-2.2 (+9.9)
	3) c 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	42.8% (62.1)	62.1% (80.9)	+19.3 (+18.8)
	3) d がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	44.8% (56.6)	43.1% (75.1)	-1.7 (+18.5)
	3) h がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	38.9% (49.5)	44.7% (68.0)	+5.8 (+18.5)
	3) i 家族や身近な人が健康であってほしいと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	88.9% (90.7)	92.2% (93.3)	+3.3 (+2.6)
	3) j 長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う。 「そう思う」と答えた児童生徒の割合	68.8% (79.7)	78.7% (86.5)	+9.9 (+6.8)

3 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題等）

○アンケート結果や協議会での意見を踏まえて、以下の課題に取り組んでいく。

- （１）兵庫県の取組や情報を広く周知するためホームページの活用など体制整備を進める。
- （２）児童生徒の教育効果を正しく確認するための兵庫県のアンケートを作成する。
- （３）外部講師リストの作成を疾病対策課と協力し進め、より学校が活用しやすいような形で公開する。